

## 議会報告会・意見聴取会の実施に関するこれまでの主な意見

### 1 実施に積極的な意見

- ・ 全会派で市民の意見を聴く場として、意見聴取会は実施すべき。
- ・ 京都市会として情報発信を行い、市民に説明責任を果たすという観点から、議会報告会は実施すべき。
- ・ 特定の議員個人や会派の報告会は参加しにくいですが、超党派で開催する議会報告会であれば参加しやすいと感じる市民のニーズに対応すべき。
- ・ 政治や行政に関心を持っている市民の思いを受け止める場として、また、市民意見を政策形成サイクルに反映する場として、議会報告会は実施すべき。
- ・ 議員が改選されたことも踏まえ、もう一度議会報告会を試行実施してもよいのではないかと。
- ・ 議会報告会・意見聴取会について、議会として市民との関わりを持つという趣旨には賛同する。

#### 【具体的な提案】

- ・ 実施に当たっては、①超党派による駅頭活動、②テーマを絞った開催、③常任委員会・分科会単位での開催、④二部形式（一部：全体での報告・質疑、二部：参加者と議員が個別に意見交換）での開催などが考えられる。
- ・ 議会報告会と意見聴取会をあえて区切る必要はなく、「市会議員と語る会」というような緩やかな形で実施してはどうか。
- ・ 行政区単位で、身近な議題をテーマに行うことが考えられる。例えば、各区で実施している「まちづくり会議」に議員がオブザーバーとして参加し、議会報告や意見聴取をさせてもらうことも一つの方法である。

### 2 実施に慎重な意見

- ・ 議会報告会については、議員個人や会派単位でも実施しており、意見聴取会については、団体や市民からの意見聴取を日常的に行っていることから、いずれも実施に消極的である。
- ・ 議会としてどれだけ時間と費用を掛けるかを、もう一度検討し、議論すべき。
- ・ 議会報告会については、議会での議論の経過や会派の立場を説明するという観点から見ると、議員個人や会派単位で実施する方がふさわしい。
- ・ 議会報告会については、議会として報告することにより、会派としての考えが市民に誤解されて伝わる可能性があるため、会派単位で実施すべき。

### 3 参加者数に関する意見

- ・ 実施する以上は、広く周知して一人でも多くの市民に参加いただくべき。
- ・ 参加者一人一人と意見交換を行うという観点から見ると、必ずしも参加者が多ければ良いというものではない。二桁以上の人数であれば十分に価値はある。

### 4 その他の意見

- ・ 議会報告会という形ではなく、市民の判断を仰ぐ場として、各会派の代表による政策討論会を実施すべき。
- ・ 昨年度試行実施した議会報告会をどのように評価するかが議論の始まりである。